

ひまわり

札幌市立幌北小学校ひまわり分校
札幌市立北辰中学校ひまわり分校
学校だより



令和6年9月24日

第22号

やっぱり、自分でやるのがいい

小学校の理科で水溶液がアルカリ性なのか酸性なのかを調べる実験を行いました。教科書に記載されている薬品が溶けている水溶液は、ひまわり分校には薬品庫がため（他の学校では薬品庫があり、きちんと水溶液や薬品が管理されています。）ありません。そこで一工夫！その教科書に記載されている薬品が多く含まれている市販されている商品を用いて実験を行います。今回は、「トイレ用洗剤」と「虫に刺されたときの腫れ、かゆみ防止の薬」を使用しました。

調べるときは、リトマス紙（赤色のリトマス紙が青くなる⇒アルカリ性、青色のリトマス紙が赤くなる⇒酸性、両方のリトマス紙に変化なし⇒中性）に水溶液を付けて、水溶液が何性かを調べる実験を行います。水溶液を1滴、リトマス紙につけると、パッと色が変わります。変わった瞬間が、実験の楽しさに繋がります。自分でやってみることが大切です。結果を教科書に記載されていることと確認し、同じときもあれば、ときとして違うときもあります。それもまた、自分で実際に実験をやったからこそわかることなのです。

また、今年度から病棟の関係部署の皆様にご対応をいただき、ひまわり分校でも「火を用いた実験」ができるようになりました。今までは、実験の動画を見ることしかできませんでしたので、子どもの学習に幅が広がりました。（分校では、机に防火マットを敷き、その上で行っています。）

今回、もう一つの実験は、水液体（透明）を蒸発皿に入れて加熱をし、水を蒸発させたのちに何が残るかを調べ、水溶液の正体を判断します。

加熱することで、水液体はどんどん蒸発していきます。蒸発の仕方も液体の中心が沸騰したように泡立ち、水液体の周りから蒸発していきます。何も残らない水液体もあれば、白い物質が蒸発皿にこびりつくように現れる水液体もあります。白い物質をよく見ると、細かい粒だったり、ザラザラしたようなハッキリ目に見える粒だったりの違いがあります。このように、水に溶けていたものが再び姿を現しますので、水溶液の正体を判断できる大切な情報となるのです。

ひまわり分校の子どもたちにも少しでも多くの実験を経験してもらい、動画を見るだけでは得られない「本物」から、学びの楽しさを感じてほしいと思います。

ハンター先生に教えてもらいました！（自信をもって英語の発声しよう！）

ひまわり分校に来校していただいているハンター先生（ALT）。いつも元気で、楽しい外国語の授業をしてくれます。そんなハンター先生に「自信をもって英語を発声するためには、どうしたらよいですか。」と聞いてみました。ハンター先生からは、「英語を、たくさん聞くこと。担任の先生やハンター先生と授業で扱うような短い英文を、たくさん発声すること。これらをいっぱい、いっぱい行うことで耳が英語に慣れてくるから、自分に自信をもって英語を話すことができるようになるよ。」とのことでした。自分に自信をもつことができることは、とても大切なことです。英語を聞き慣れることに「秘訣」があったんですね。



実験では、5種類の液体を調べました。リトマス紙の反応もよく、きちんと結果が出ました。



蒸発皿に広がった液体の端から蒸発が始まり、液体によって白い個体が出出てきます。

お知らせ ◎26日（木）に台湾と中継授業を5時間目に行います。講師は、謝先生です。（北海道大学の国際広報メディアを勉強されている大学院生の方です。）どんな内容なのか楽しみです。